

施設紹介

Vol.83

大阪府

社会福祉法人大潤会

特別養護老人ホーム 御殿山カーム



御殿山カーム（吉田潤理事長）は、京阪本線の御殿山駅から徒歩5分ほどの便利な場所に建つ。駅からは近いが県道からは少し中に入っているため静かで、施設の正面には水田があり青々とした稲穂が揺れている。「スタッフが大事。職員教育に力を入れていく」という伊與木文彦施設長に話を聞いた。

設立10周年を皆で祝おう！

御殿山カームは今年設立10周年を迎える。10周年にあたっての抱負を聞いた。「今年の目標はみんなで祝いすること。そのひとつは夏祭り。いつもより更に盛大に行う。ふたつめはとにかく全員で外出！実際に体調等で無理かもしれない。近隣の公園や施設の庭への外出になる方もいるでしょう。」



でも良いから施設の外に全員で出られたらと考えている。1時間の外出が大丈夫な方は、大阪の方にはなじみある太陽の塔のある万博公園に外出を企画している。

第23回介護保険委員会 事業者団体ヒアリングに向け対応協議

9月4日、推進協は東京都港区のA.P.浜松町で、第23回介護保険委員会（藤村二朗委員長）を開き、29日の第109回



委員会で発言する赤枝会長

介護給付費分科会事業者団体ヒアリングの対応を協議した。藤村委員長が作成した資料を基に討議した結果、焦点の1つである看取りについて一定条件の下で「看取り配置医師加算（仮称）」の創設を提案することや、多床室のプライバイシー確保の重要性などについて意見を述べることを決めた。また消費税再引き上げへの対応や、小規模多機能事業のシヨートステイが行う看取りの評価についても触れることとした。

【主な論点】（第104回介護給付費分科会資料より概略）

1. 医療提供体制や介護報酬上の評価の在り方について
2. プライバシーに配慮した多床室
3. 居住費の利用者負担の在り方
4. 小規模多機能居宅介護等の整備の促進策
5. 地域密着型の都市部等の地域における整備の方策
6. 報酬上の加算の在り方について

全国研修大会 in 千葉 実行委員会報告

8月27日、千葉支部は6回目の全国研修大会 in 千葉実行委員会会議（WEB会議）を開いた。

全国研修大会 in 千葉
一人ひとりの幸せを大切に
夢の国で語ろう！未来の福祉

締め切り間近です！お急ぎください！

推進協ホームページからお申込みください（他社ホームページへジャンプします）。

11月13日（木）～14日（金）

参加申込み受付中！
（10月10日締切）

ディズニーランドが近い！海が近い！当日はチーバくんもやってきます！

8月27日、千葉支部は6回目の全国研修大会 in 千葉実行委員会会議（WEB会議）を開いた。

【議題1】参加申込状況（略）

【議題2】大会案内第2弾 8月26日に千

【議題3】県内会員施設申込みについて 千葉県内会員施設職員の申込みを9月20日までに行ない、次回会議時（9月24日）に参加者数の目安をつけ、次の営業を検討する。

【議題4】第3分科会現況報告（略）

【議題5】第4分科会現況報告

テーマは「施設にたいてい入居しにくい？自分達が入りたい施設を目指して」。

ユニットケア研修会議報告

8月21日、推進協は東京都港区のA.P.品川で、臨時ユニットケア研修事業推進室会議を開き、実地研修施設の調査項目



などについて話し合った。第1号議案 実地研修施設選定調査票について 調査票の項目の変更について 意見を出し合った。変

更になつた場合、契約締結から2年を迎える実地研修施設の再調査を新項目で行うかの審議も必要になり、新項目について調査員や実地研修施設を対象に勉強会を開く必要がある。次回推進室会議で再度検討する。

【議題】 第2号議案 その他

○講義用資料（案）について 阪田震一編集主宰（関東福祉専門学校校長）から、現況について報告あり。委員からは「新講義用資料の指導用マニュアルが必要」といった意見があった。

またこの会議には、厚労省と三菱総研から4名が参加。推進協に「ユニットリダー研修のあり方研究」への協力依頼があった。11面に記載あり。

【議題】 第2号議案 実地研修施設選定調査項目（案）について

8月28日、推進協は東京都港区のA.P.品川で、第3回ユニットケア研修事業推進室会議を開き、研修に関する6議案を承認した。

【議題】 第1号議案 研修ノート（講義用資料）の内容確認について（略）

【議題】 第2号議案 実地研修施設選定調査項目（案）について

12月中旬に行なう。

【議題】 第5号議案 平成27年度ユニットケア研修募集時期について

【議題】 第6号議案 その他

受講辞退申請期限を過ぎてからのキャンセル料について 平成27年度から50%のキャンセル料を請求することを決めた。

以上、可決された議案は、9月5日の執行委員会を経て、次回推進事業合同会議で審議する。

認知症について考える 沖縄支部地域ネットワーク会

8月19日、沖縄支部は国頭郡恩納村の特別養護老人ホーム谷茶の丘（玉城篤子施設長）で、ユニットケア施設職員を対象に、平成26年度沖縄支部地域ネットワーク会を開いた。約40名が参加し、認知症と個別ケアについて学習した。

第1部の「認知症について考えよう！」で上里絹代研修部長（東雲の断面）統括本部長は、脳の断面図やMRI画像を見ながら、認知症の原因別に症状を詳しく説明した。また認知症の人への対応の心得として「3つのない驚かせない、自尊心を傷つけない、急が

せない」を示し、「認知症のあり方は特別なことではなく、ごく普通のことを全員が普通に出来ることであり、知識よりもその人のことが大事」と話した。

第2部を担当した前黒島智司受入担当（東雲の丘・次長）は「介護現場で認知症を考える」の中で「パーソンドケア」を紹介し、「高齢者福祉施設職員は介護のプロとして、認知症高齢者を理解することが大事で、現在の

みで捉えるのではなく、過去から現在に至るまでにどのような生活を送ってきたかを知り、本人の思いに寄り添うケアをしていくことが求められる」と話した。

9月の『1行ニュース』まとめ

推進協ホームページで毎日更新している「1行ニュース」1か月分のタイトルをまとめました。

- 1日：小規模デイは「18人以下」地域密着型移行で方針（厚生労働省）、介護報酬改定へ14年度調査に協力要請（厚生労働省老健局）
- 8日：老健施設、在宅復帰の在り方議論（厚労省）、介護保険、年間利用者566万人で過去最高（厚労省）、介護療養の「機能」は必要、柔軟運用求める声も（介護給付費分科会）
- 12日：「親の介護は家族が」は56.7%（国立社会保障・人口問題研究所）、採用が困難、介護人材の不足感 56.5%（介護労働安定センター）
- 13日：認知症対策で連絡システム構築を（東京都）、ベトナムのEPA看護師・介護士候補者が到着（厚労省）
- 20日：介護の魅力「人の役に立つことを実感」（日本介護クラフトユニオン）
- 22日：在宅介護でストレス8割 3人に1人「憎しみ」も（連合）
- 23日：「採用困難」解消が課題（介護労働安定センター）
- 25日：“市町村事業”なら要介護認定前でも可（厚労省）
- 26日：雇用管理改善モデルの構築など示す（厚労省）
- 27日：認知症対策や介護施設防火対策など推進（厚労省）、総合確保方針の進捗状況を確認（「医療に関するプロジェクトチーム」「介護に関するプロジェクトチーム」、厚生労働部会）
- 28日：通所系と介護系、一体的な評価を（厚労省・介護給付費分科会）

※日付は1行ニュースにアップした日。

1行ニュースピックアップ

- 【採用困難】解消が課題（介護労働安定センター調べ）<平成25年度実態調査の概要>（ ）内は前年度を表す。
- (1) 1年間の離職率の状況は、全体では16.6%（17.0%）だった。また採用率の状況は全体では21.7%（23.3%）だった。
 - (2) 仕事を選んだ理由のうち、「働きたい」となっている。 ※(2)(3)(7)は略（介護労働安定センターHPに全調査結果あり）。
 - (3) 実」が20.3%（20.9%）。
 - (4) 介護職員処遇改善加算に伴う経営面での対応状況を見ると、「一時金の支給」が60.9%（55.6%）、「諸手当の導入・引き上げ」が48.6%（44.1%）、「基本給の引き上げ」が29.4%（26.5%）、「教育研修の充
 - (5) 労働者の所定内賃金【月給の者】は212,972円（211,900円）だった。
 - (6) 仕事を選んだ理由のうち、「働きたい」となっている。 ※(2)(3)(7)は略（介護労働安定センターHPに全調査結果あり）。

要介護5から要介護2へ

ベランダのプランターへ水やりし、じょうろを片手に رفتり来たりする入居者。施設ではよく見かける光景だが、その方が入居時では要介護5だったと聞きびっくり。現在は要介護2までに改善。

伊與木施設長は「何よりスタッフの取り組みが素晴らしい」と話した。

伊與木施設長は「何よりスタッフの取り組みが素晴らしい」と話した。

伊與木施設長が「あらあら、どちらの綺麗な方かと思ったらTさんやないですか」と明るく声をかける。すかさず「いつもの言葉いらん」と照れるように返事するTさん。

Tさんは認知症で短期記憶が難しいそうだが、それでも毎日声かけを続けてきたことで「いつもの言葉いらん」と言ってくるようになった。

「いつもの言葉いらん」

伊與木施設長が「あらあら、どちらの綺麗な方かと思ったらTさんやないですか」と明るく声をかける。すかさず「いつもの言葉いらん」と照れるように返事するTさん。

Tさんは認知症で短期記憶が難しいそうだが、それでも毎日声かけを続けてきたことで「いつもの言葉いらん」と言ってくるようになった。

セミパブリックスベイスを挟んで1フロアに2ユニットの作り。ユニット間を自由に行き交う入居者が多い。

廊下には毎日の日課である亀を見に車椅子で来る人、隣のユニットで行なう女子会に遊びに出かける人、何人かで仲良くテレビを囲む人たち、長いソファに1人で気持ち良さそうに寝ている人。入居者が「わが家」として、それぞれの暮らしを楽しんでいる様子が見られた。

施設を「わが家」に

また、生活のなかで自己選択、自己決定してもらえるように、ユニットで調理の際に頭に巻くバンドナを本人に選んでもらう。普段は頭にかぶるのを嫌がる方も、鏡を目の前に置くと、自然と全員が自分で頭に巻いて、外すこともないそう。

東京都新宿区



社会福祉法人邦友会

特別養護老人ホーム 新宿けやき園



杉原施設長（左）と川島統括係長

なじみの関係を大事に

新宿けやき園（高木枝裕格理事長）は、特別養護老人ホーム、障害者支援施設との複合型施設であり保健医療・福祉・教育施設を総合的に展開している。グループならではの、広範な人的ネットワークの活用、グループ施設間の相互連携により

「当施設は、平成20年の開設当時には、新宿区内で初めての個室ユニット型施設でした。個室ユニット型の良さについてユニットリーダー達と話をした時に、10人という少人数でなじみの関係を作りやすいところが良いと彼らは答えてくれました。なじみの関係は良いですね」（杉原施設長以下杉原）

職員で1つの大家族という感じ」（川島統括係長以下川島）と話した。

複合型施設ならではの取組み

お母さんが老人福祉施設に入居している、子供さんが障害者支援施設に入居している方が2組あり、「複合型ならではの取組みとして障害者支援施設の個別支援計画に、お母さんに会いに行くというプランが入っている」（杉原）

「同じ建物内なので、気軽に会いにいけないのが良いですね」（川島）。難しい点もあるが施設内で連携してご利用者が望む外出を企画しているそう。

看取りの取組み

「医療との連携

看取りには医療との連携がかかせない。同じグループの国際医療福祉大学三田病院と提携して、週に3回医師（内科医2人、精神科医1人）が訪問診療している。看取りについても基本的なルールを決めており、施設と病院の連携がきている。

「同じ建物内の障害者支援施設に24時間看護士もいるのも大きいです」（杉原）

「私自身、看取りに対して前向きでなかったけれど、2回看取りをして最後の最後まで支援したいという感覚になりました。看取りを行う上で職員に不安はあると思いますが、最後の2、3日しか関わりの少ない外部の医療機関が看取るよりも、何年も関係を築いてきた私達からの会話や普段の生活の環境であたたかく最後まで支援したい。そういう中で最期を迎えていただきたいと話しました」（川島）

「病院なら最後まで点滴などで治療できますが生活施設では何もできません。病院から禁食、看取りで退院される方もいらっしゃいます。でもユニット職員だからこそ出ていってほしい。食べたいものを召し出してあげたい。『歌が好きだったからCDを流しましょう。今までの生活の中から自然とアイディアが生まれてきます。回数を重ねて少しずつ良い看取りができるようになってきました』（川島）

「看取りは本当に良いと思いますよ。夕方17時におやつを食べて、最後の最後までしっかりとごはんを食べて。ご家族に見守られて亡くなった方がいました」（杉原）

「最後まで食べられる方、食べられない方もいます。旅立ちの衣装の準備など、ご家族とも色んな話をします。最後は清拭かエンゼルケアなどを一掃に行います。」（川島）

「看取りを進めるには医師との連携がかかせないですね。また最終的にはご家族と施設との信頼関係です。看取りをされた方は、最期がここで本当に良かった、と言ってくれますが、同意できない方もいらっしゃいます。同意がないと看取りに入れないです。最終的にはご家族間の迷いが大きいと思いますね。ご家族間の意志の統一が大事。提言としては、将来はこうしたいと予め決めておいたほうがよいと思います。迷いながらもこの取組みを維持していきたいと思えます」（杉原）

〒169-0073 東京都新宿区百人町4-5-1 TEL03-3367-1601 FAX03-3367-1602

【特養】定員100名【ショートステイ】10名【デイサービス】24名